

第7回 地域フォーラム

御所市 発展ビジョン



御所市長 東川 裕

新火葬場整備事業

整備基本方針

御所の自然と歴史に包まれた
お別れの場にふさわしい豊かな空間づくり

◆施設イメージ



◆想定建築概要

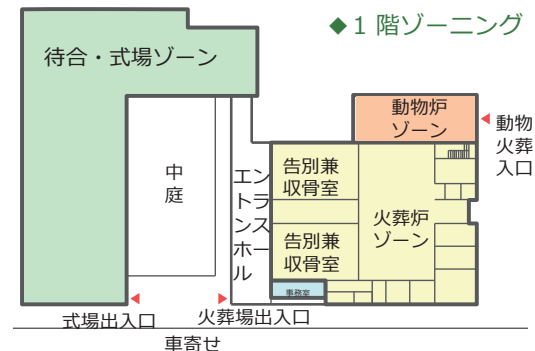
・計画地	御所市朝妻・僧堂地内
・敷地面積	約3.5ha
・延べ面積	約1,600㎡
・構造規模	RC造、2階建て
・火葬炉設備	3炉(※)+動物炉1炉
・諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・告別室兼収骨室 ・待合室 ・多目的室 ・式場 ・遺族控室 ・多目的便所 等

※当初設置炉数として検討中

◆計画予定地



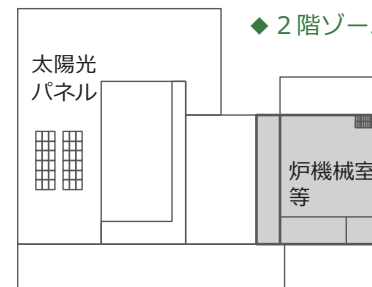
◆1階ゾーニング



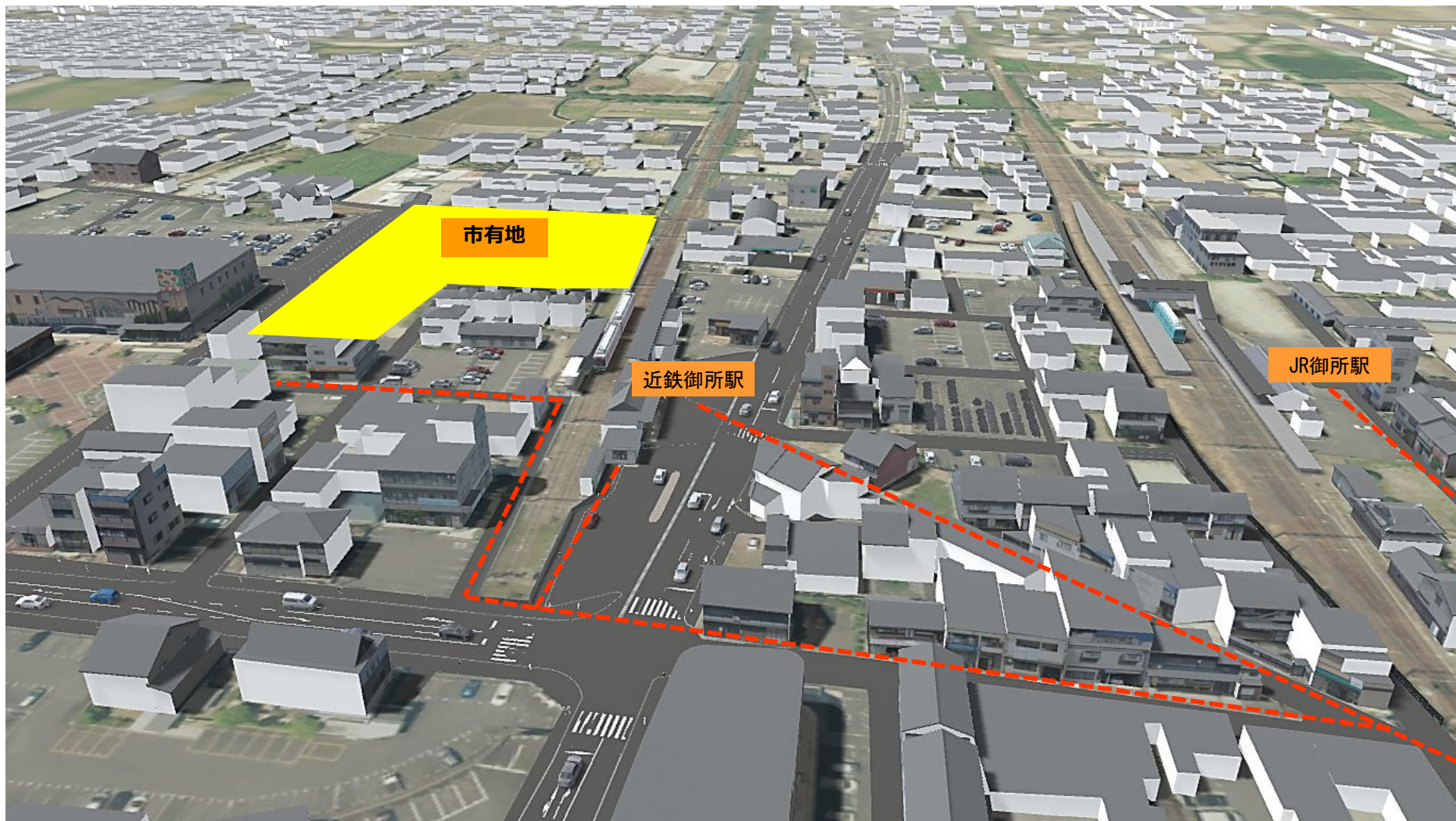
◆配置イメージ



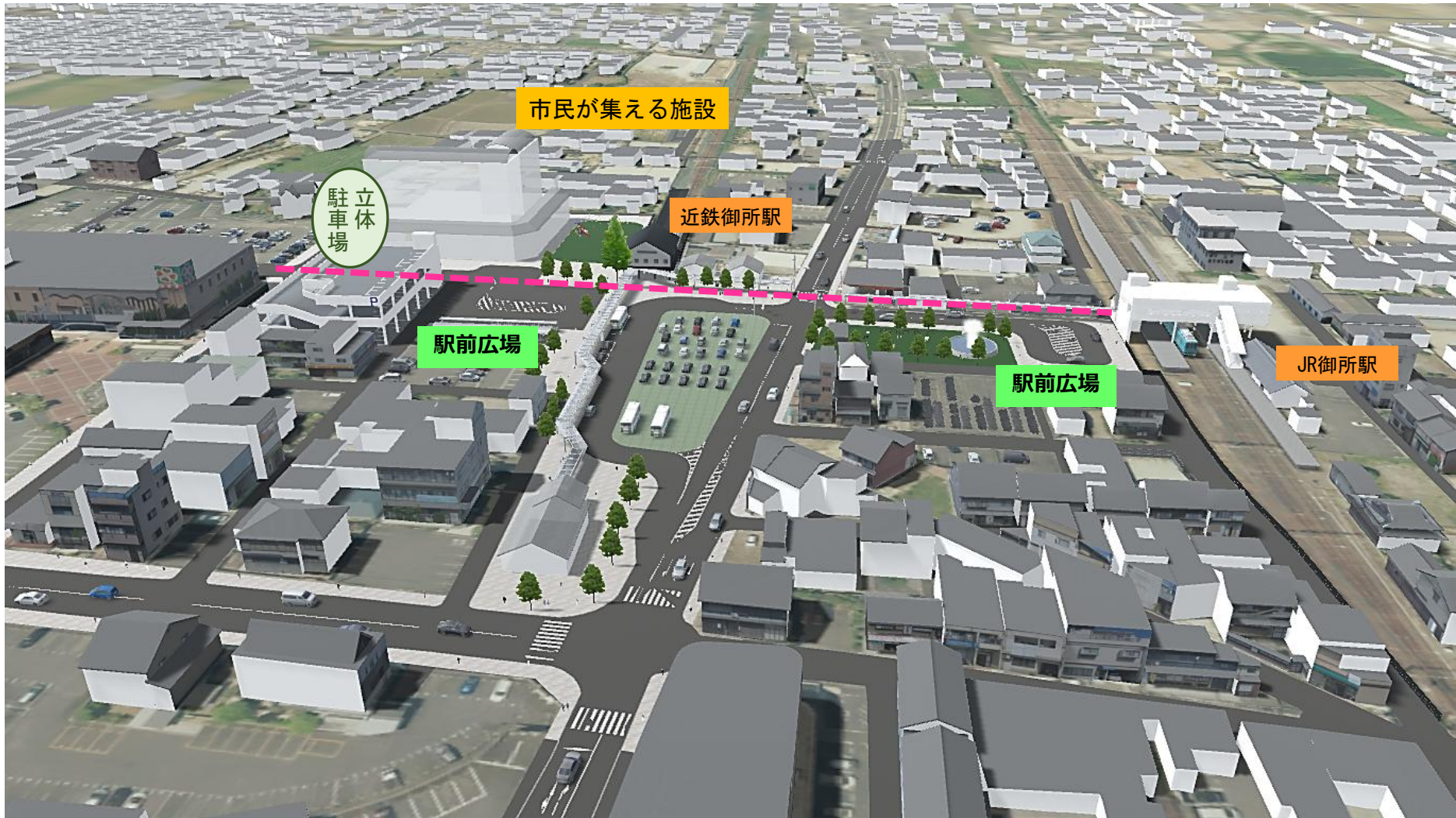
◆2階ゾーニング



近鉄・JR御所駅周辺の整備（整備前）



近鉄・JR御所駅周辺の整備（理想像）



「御所まち」の重伝建選定に向けた取り組み

他の※1重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建」と比較しても、質的にきわめて高く、市と住民が望めば重伝建になる。

※1 重伝建・・・重要伝統的建造物群保存地区

市町村が都市計画または条例により決定した伝統的建造物群保存地区（以下「伝建」）のうち、特に価値が高いものとして国（文部科学大臣）が選定したもの。



中井家住宅



東西で約220軒を超える江戸時代～昭和初期の町家が軒を連ねる



江戸時代から、庶民の生活とともに時を重ねてきた 虫籠窓・卯建（うだつ）・煙出し・格子



農業の取組：御所市農産物ブランド化事業



【二段階】

- 高付加価値化
- 販売経路の確立
- 販売手法
- 市場調査
- PR活動
- 商品の差別化 等

【一段階】

- 品種の特定
- 生産体制の確立
- 担い手の確保
- 栽培方法の確立
- コンセプトの策定等

【取組・成果】

- 御所芋焼酎の販売、御所柿のGI申請、ブランド認証制度の設定
- 共同出荷、売込み
- 地域の理解と応援気運の醸成
- 直売所へヒアリング

【取組・成果】

- 大和芋、分葱、ししとう、オクラ等に対象を設定
- 生産品目ごとの部会を設置
- 農業者約30名が参加
- 栽培日誌の共有、県・JAを交えた研究を開始

【三段階】

- 都市と農村の交流の活性化イベント
- 栽培技術の継承
- 新規就農者の増加
- 知名度の確保（検定協会への出品等）
- 作付面積の拡大
- メディアへ展開等

市内農地約1084haのうち、約86haある耕作放棄地の解消や産業・経済・人口の活性化、新規事業者・市民の愛着の創出を目的とし、農産物のブランド化を推進する。

➡「御所野菜のブランド化を通じて、
①一人ではできないことを協力で実践・挑戦できる地域
②みんなで評価し合って、労をねぎらい合う地域
③良い「ひと」「こと」「もの」をみんなで守っていける地域を目指す。

【取組・成果】

- 農フェスやマルシェを通じたブランドPR活動
- 金剛葛城山麓地区農泊事業の開始
- 販売日誌の整理、技術・種等の承継
- 焼酎の勢いを受けて御所芋の作付面積が約2倍に



御所ブランド野菜の共同出荷



オクラやししとうの共同出荷・販路拡大を目指す「多品種部会」のメンバー



農業の取組：御所市農産物ブランド化事業



御所芋畑の様子（8月頃）



従来廃棄されていた規格外の御所芋



御所市6次産業化商品第1号
御所芋焼酎『みかけによらず』



奈良まほろば館（東京・日本橋）でのプロモーション・試飲会の様子（8月）

